

健診業務トータルサポートシステム ハードウェア仕様書

令和8年7月15日

大阪府大阪がん循環器病予防センター

〈1〉 検診システム用ハードウェア

ハードウェア構成

- ・DPサーバー、APサーバー、WEBサーバー 各1台
- ・OCR装置 2台
- ・DBサーバ用パッケージ×1台
- ・APサーバ用パッケージ×1台
- ・クライアント用基本パッケージ×120台
- ・Web予約用パッケージ×一式

センター設置時期 2026年10月末

1	検診システム用ハードウェアは下記の要件を満たすこと。 ・DBサーバ×1台 日立製作所製HA8000V/DL320相当 ・APサーバ×1台 日立製作所製HA8000V/DL320相当 ・Webサーバ×1台 日立製作所製HA8000V/DL320相当 ・OCR装置×2台 日立製作所製 HT-4161相当
2	検診システム用パッケージソフトは下記の要件を満たすこと。 ・DBサーバ用パッケージ×1台 ・APサーバ用パッケージ×1台 ・クライアント用基本パッケージ×120台 ・Web予約用パッケージ×一式

健診業務トータルサポートシステム仕様書

令和8年7月15日

大阪府大阪がん循環器病予防センター

I. 調達物品の名称、数量・構成内訳及び性能、機能、規格等

検診業務トータルサポートシステムとして調達する物品の名称、数量及び構内内訳は下記のとおりとす

調達品名

〈1〉ソフトウェア

- ・健診の種類と規模
- ・共通
- ・健診システムの業務機能要件
- ・システム連携

〈2〉WEB機能

- ・Web予約全体

〈3〉その他

納期 2027年3月末日

タイトル	No.	要件	備考
1. ソフトウェア			
1.1 健診の種類と規模			
	1	対象健診の種類を以下とする。 ・人間ドック ・定期健康診断 ・特定健康診査(特定健診) ・協会けんぽ ・特殊健康診断 ・住民健診(がん)	
	2	指定する箇所に健診システムサーバを設置し施設内・出張健診の一元管理を実現できること。	
	3	総受診者数は、年間8万人／年のデータと過去からの移行データ3年分を含み、将来10年分のデータ確保が行えるを前提とした健診システムであること。	
1.2 共通			
	1	1 端末で複数の業務用画面を起動できること。また、画面を切り替えていずれの業務画面も利用できること。	
	2	2 全ての業務用画面は画面解像度(WXGA(1280×768)以上)に合わせて、全画面(最大化)表示できること。	
	3	3 日付入力は、和暦および西暦どちらにも対応していること。	
	4	4 日付入力において、日(2桁の数字)のみ入力した場合、システム日付から年および月を補完して表示すること。	
1.3 健診システムの業務機能要件			
1.3.1 個人登録機能			
	1	1 健診者独自のIDは自動発番ができること。	
	2	2 基本情報の組み合わせで検索ができること。また、一部の文字列による一部一致検索ができること。	
	3	3 健診者登録画面から検査データ入力画面へ遷移できること。	
	4	4 健診者登録画面から予約登録画面へ遷移できること。	
	5	5 永久情報として感染症、血液型、肝炎検査、既往歴、家族歴の管理ができること。また、受診結果(手入力、媒体取り込み、オンライン)から自動更新できること。	
	6	6 問診情報登録画面に遷移できること。	
	7	7 健診者登録画面から結果表が印刷できること。	
	8	8 受診団体および報告先団体の管理が可能なこと。	
	9	9 E-Mail、連絡先(携帯電話等)、ワープロコメントの項目も入力できること。	
	10	10 氏名登録時にカナ氏名を自動展開できること。	
	11	11 旧性の管理ができること。また、旧性での検索ができること。	
	12	12 郵便番号から住所検索ができること。また住所から郵便番号が検索できること。	
	13	13 特殊健診項目に関する情報(業務で取り扱う物質)を管理できること。	
	14	14 個人の特記事項としてフリーで入力できるワープロエリアがあり、履歴管理できること。また、この内容が予約、受付時の画面に表示されること。	
	15	15 受診履歴が管理・参照できること。受診履歴は受付登録時に自動で記録されること。	
	16	16 予約履歴が管理・参照できること。予約履歴は予約登録時に自動で記録されること。	
	17	17 予約変更履歴を管理・参照できること。予約変更履歴は予約変更登録時に自動で記録されること。	

タイトル	No.	要件	備考
	18	過去の受診回数が表示されること。なお、受診回数は自動で管理されること。	
	19	検査結果は、参照用画面で表示が出来ること。	
	20	所属団体は健保登録とは別に3団体登録できること。また、所属団体毎に個別のID(従業員コード)を別途設定ができること。	
	21	個人登録画面から所属団体・健保の検索が容易に行えること。また、その際の検索には団体・健保のあらゆる登録情報にて検索ができること。	
	22	団体と従業員コードが同一の登録が存在する場合は警告メッセージを表示できること。	
	23	個人属性登録画面上に予備項目を追加配置できること。画面への項目の追加位置、タイトル名称は自由に変更できること。	
	24	個人属性登録画面上の予備項目を、個人一覧画面の検索条件に設定できること。	
	25	個人属性登録画面上の予備項目を、帳票出力項目及び帳票出力時の検索条件に設定できること。	
	26	個人一覧画面上で項目の表示／非表示設定ができること。	
	27	個人一覧画面の表示タイトルの順序が変更できること。(カナ氏名、性別→性別、カナ氏名等)	
	28	個人一覧画面の表示項目別にソート(昇順・降順)を行い、表示できること。	
	29	個人一覧画面の表示項目およびソート順を、ユーザ単位で記憶できること。	
	30	個人一覧画面の抽出結果を、CSV出力できること。	
	31	複数の健診者に対して一括で属性情報を追加・変更可能な機能を有すること。	
	32	契約団体から入手した電子データファイルの取込定義作成および取込機能があり、個人情報の更新ができること(ファイル形式はCSVとする)。	
	33	個人情報更新用の電子データはファイルレイアウトが複数ありうるので、ユーザ側で取込みレイアウトの追加・変更ができること。	
	34	個人登録重複チェックの際には大/小文字を区別せず、半角全角でも区別なく検索を実施すること。また「ズ」と「ヅ」、「ジ」と「ヂ」、「オ」と「ヲ」などの同音文字も同一文字として検索すること。	
	35	多重登録した個人情報・履歴情報の名寄せ・履歴マージができること。	
	36	協会けんぽの認可番号、特定健診の受診券番号および有効期限、特定保健指導の利用券番号および有効期限は年度毎に登録でき、履歴管理ができること。	
	37	個人情報を変更した場合、変更者および変更日時が、ログ管理できること。	
	38	個人情報保護の観点から受診結果の利用に関する情報(同意する・同意しない・未回答)の管理ができること。	
	1.3.2	団体登録機能	
	1	団体独自のIDは自動発番ができること。	
	2	基本情報の組み合わせで検索ができること。また、一部の文字列による検索が可能なこと。	
	3	団体所在地住所と請求書などの送付先住所の管理が用途別に個別に登録できること。	
	4	郵便番号から住所検索ができること。また住所から郵便番号が検索できること。	
	5	各種送付先住所は所在地住所からのコピーができること。	
	6	団体名称登録時に、カナ名称を自動展開できること。	
	7	団体毎に年度開始日が管理可能なこと。 (例)事業所 4/1 学校 4/2	
	8	所属部署が4階層で管理可能なこと。	
	9	所属部署ファイル(CSV)の取込定義作成および取込機能があること。	

タイトル	No.	要件	備考
	10	団体の登録情報を複数の団体に対して一括で変更登録ができること。もしくはCSVなどで一括してデータを取り出し、Excel等で加工して一括して取り込み登録ができること。	
	11	団体登録画面上に予備項目を追加配置できること。画面への項目の追加位置、タイトル名称は自由に変更できること。	
	12	団体登録画面上の予備項目を、団体一覧画面の検索条件に設定できること。	
	13	団体登録画面上の予備項目を、帳票出力項目および帳票出力時の検索条件に設定できること。	
	14	団体一覧画面上で項目の表示／非表示設定ができること。	
	15	団体一覧画面の表示タイトルの順序を変更できること。(団体番号、団体名→団体名、団体番号等)	
	16	団体一覧画面の表示項目別にソート(昇順・降順)を行い、表示できること。	
	17	団体一覧画面の表示項目およびソート順を、ユーザ単位で記憶できること。	
	18	団体一覧画面の抽出結果を、CSV出力できること。	
	19	入金情報(締め月日・入金月日)が管理できること。	
	20	統括衛生管理者情報が管理できること。	
	21	看護師・保健師情報が管理できること。	
	22	産業医情報が管理できること。	
	23	学校情報が管理できること。	
	24	団体情報を変更した場合、変更者および変更日時が、ログ管理できること。	
	1.3.3	契約機能	
		＜契約登録機能＞	
	1	契約期間を年度(日付範囲)単位で管理できること。	
	2	契約ごとに年齢起算日を管理できること。	
	3	契約情報を次年度に一括コピーできること。	
	4	契約ごとにコースやオプション検査を管理できること。	
	5	コースには受診資格として性別、本配区分、年齢、職種、個人登録画面の予備項目情報が設定ができること。	
	6	コース料金の登録ができること。また金額の修正、負担先の追加／変更／削除が可能なこと。	
	7	消費税率の変更に対応可能なこと。	
	8	オプション検査については、団体請求分と個人自費分に分けて管理できること。なお、個人受診のオプションの結果は個人報告に加味されるが、団体への報告には加味されないこと。	
	9	オプションには受診資格として性別、本配区分、年齢、職種、個人登録画面の予備項目情報が設定できること。	
	10	オプション料金の登録ができること。また、金額の修正、負担先の追加／変更／削除ができること。	
	11	同内容の契約を結ぶ複数の事業所へ契約情報を共有すること。もしくは契約情報を容易に複写できる機能を有すること。複数の団体が受診する健診では、一つの契約を複数団体で共有できること。	
	12	特定健診情報ファイルに必要なコード(種別コード、健診機関番号、窓口負担コード、請求区分コード)や料金情報を契約別に設定できること。	
	13	特定健診情報ファイルに必要なコード(詳細な健診項目コード)や料金情報を契約別に設定できること。	
	14	負担先ごとに金額指定で設定する方式と、負担割合で設定する方式があること。	
	15	負担金には請求上限額が設定可能で、上限額を超過した場合の負担割合が設定できること。また、その負担割合から金額が自動で計算されること。	
	16	上限額設定には、対象者および対象コースの指定ができること。	
	17	負担金には併用差引の設定ができること。	

タイトル	No.	要件	備考
	18	契約で定められた提出帳票及び提出媒体が設定できること。また,ソート順,出力条件,部数が予め設定できること。	
	19	課税方式及び税負担先が設定できること。	
	20	請求単位(団体別・部署別)の設定ができること。	
	21	契約コース登録画面上に予備項目を追加配置できること。画面への項目の追加位置,タイトル名称は自由に変更できること。	
	22	契約コース登録画面上の予備項目を,契約コース一覧画面の検索条件に設定できること。	
	23	契約コース登録画面上の予備項目を,帳票出力項目および帳票出力時の検索条件に設定できること。	
	24	契約コース一覧画面上で項目の表示／非表示設定ができること。	
	25	契約コース一覧画面の表示タイトルの順序が変更できること。(契約番号,コースコード→コースコード,契約番号等)	
	26	契約コース一覧画面の表示項目別にソート(昇順・降順)を行い,表示できること。	
	27	契約コース一覧画面の表示項目およびソート順を,ユーザ単位で記憶できること。	
	28	契約コース一覧画面の抽出結果を,CSV出力できること。	
	29	料金の減額ができるオプションが登録でき,予約・受付時に使用すると,検査オーダーの変更と料金の減額ができること。	
	30	予約時や受付時に確認しないといけない項目を契約情報として登録できること。	
	31	報告書をはじめとした必要帳票を契約団体毎に登録できること。また,それらの帳票の出力条件や印刷部数,発送先等についても予め登録しておくことができること。	
	32	契約団体の資料など,スキャンしたファイルを管理できること	
		＜渉外情報登録機能＞	
	33	施設営業担当者の渉外内容を登録できること。	
	34	契約先団体の予約手段や報告手段が管理できること。	
	35	契約先団体窓口の担当者名や連絡先を管理できること。	
	36	見積情報(コース情報,単価情報)を管理できること。	
	37	見積情報を履歴管理できること。	
	38	渉外時に使用したドキュメントを管理できること。	
	39	見積書が印刷できること。	
	40	見積情報を契約コースに反映できること。	
	1.3.4	巡回計画	
		＜スケジュール機能＞	
	1	団体別もしくは健診場所別で日単位の配車スケジュールが管理できること。	
	2	車両の出発時間および帰着時間が設定できること。	
	3	同一健診場所に同行する車両が設定ができること。	
	4	同行する車両が他の場所で時間が重複する場合は,警告メッセージが表示されること。	
	5	同行するスタッフ予定数を登録できること。	
	6	日別でスタッフ種類別の上限数を設定でき,上限数を超過して予定数を登録した場合は警告メッセージが表示されること。	
	7	健診場所情報(電源,借用物等)が登録できること。	
	8	健診場所の地図が登録,閲覧できること。	
	9	車両別に経費が登録できること。	

タイトル	No.	要件	備考
	10	車両に対して、車検・点検等の登録が可能なこと。	
	11	前年の実績データを元に、健診の計画を立てることができること。昨年の計画を複写する機能がある	
	12	スタッフ、車両、機材の健診日程割り付けを一覧形式にできること。	
	13	車両別の日別スケジュール表が出力できること。	
	＜スタッフ割付機能＞		
	14	健診スタッフの勤務可能スケジュールを予め登録管理ができること。	
	15	巡回先に同行するスタッフを登録できること。	
	16	勤務不可のスタッフを割り付けた場合は、警告メッセージが表示されること。ただし強制登録も可能とする。	
	17	予定数以上のスタッフを割り付けた場合は、警告メッセージが表示されること。ただし強制登録も可能とする。	
	18	割り当てたスタッフに対し、業務内容を登録できること。	
	19	スタッフの宿泊有無や交通費など、移動に関する情報が登録できること。	
	20	スタッフ別の週間スケジュール表が出力できること。	
	1.3.5 予約機能		
	＜予約カレンダー機能＞		
	1	複数コース枠(予約枠)・検査枠をグループ化した人数の予約状況の表示ができること。また、表示画面にてグループ化の組み合わせが容易に変更できること。	
	2	検査枠の予約枠の設定・予約状況の表示が管理できること。	
	3	予約枠人数の設定が可能なこと。また、予約枠を超えて予約を登録しようとした場合、警告表示され、警告表示後の超過登録可否設定が予約枠ごとにできること。	
	4	祝日と施設独自の休日管理ができること。また、設定はユーザ側にて実施できること。	
	5	予約カレンダー画面から該当日付を選択することにより予約登録、削除、変更が可能なこと。	
	6	受診者・健診日毎にコメント入力および参照ができること。	
	7	コース枠(予約枠)・検査枠共に時間帯別で予約管理できること。	
	8	団体ごとの人数予約が行え、予約枠人数の対象とすることが可能なこと。また、健診者が決定した際に健診者が所属する団体予約として予約枠に反映させること。	
	9	照会する枠組合せ(グループ化)はパターン登録ができること。	
	10	予約待ち対象者の表示・編集・再予約登録ができること。	
	11	カレンダー形式・マトリクス形式(予約日×枠)の2方式で人数表示ができること。なお、表示形式の切り替えが同一画面上で出来ること。	
	12	カレンダーは当月・翌月・翌々月まで3ヶ月分を一画面で表示ができること。	
	13	予約空き状況によって色分けして表示ができること。また、色設定はユーザ側にて自由に変更ができること。(残人数のレンジ変更もできること。)	
	14	健診者を検索し表示した画面から、受診内容の選択ができ、予約可能な日程・時間をカレンダー形式にて表示し、予約登録ができること。	
	15	予約日変更登録ができること。また、変更先の予約日の検索にカレンダー表示が使用できること。	
	16	枠人数の設定情報は期間を指定して一括コピーができること。また、その際にすでにある設定状況を上書きするかしないかを選択できること。	
	17	1泊ドックの場合、翌日に実施する検査の検査枠は翌日を参照して残人数の紹介、予約日確定ができる	
	18	コース枠(予約枠)や検査枠および人数を指定して受診可能候補日を一覧で検索表示できること。	

タイトル	No.	要件	備考
	19	予約機能の操作フローは、カレンダー画面、個人一覧(検索)画面、予約者一覧(検索)画面などの複数の開始画面を持っていること。	
		<予約機能>	
	20	再受診者は、複数の個人検索方法(カナ氏名、健診者番号)にて呼び出しできること。また、新規健診者の場合、予約画面から健診者登録画面へ遷移できること。	
	21	予約時、ワープロコメントが入力可能なこと。	
	22	団体・部署・性別・本配区分・年齢範囲の条件設定により、予約者のメインコースを自動選択して表示できること。また、検査内容及び料金が自動設定されること。	
	23	過去の予約情報(受診(予約)日、契約、コース、オプション)を参照し、今回予約にコピーできること。	
	24	契約が異なるコースを同時予約できること。(例：所属会社の定期健康診断と市町村のがん検診の同	
	25	契約が異なるコースを同時予約した場合、各コースの負担先に請求が発生すること。	
	26	コース選択時、契約対象外のコースは表示しないこと。	
	27	予約変更履歴や予約履歴、受診履歴が参照できること。	
	28	予約時にオプション検査(団体請求分・自費分)の追加・削除の指定ができること。	
	29	オプション選択時に、受診資格外のオプションは表示しないこと。(受診資格のあるオプションに絞り込んで表示ができること。)	
	30	団体予約時、検査枠の追加人数を予め設定できること。	
	31	予約者の健診料金の参照ができること。また、金額の修正、負担先の追加/変更/削除ができること。	
	32	複数予約者の予約日を変更する場合、複数予約者を同時に選択し、任意の日時に一括変更が可能なこ	
	33	個人検索画面及び個人登録画面から予約登録画面へ直接遷移ができること。	
	34	希望月・曜日を指定して待ち予約の登録ができること。	
	35	契約情報が未登録の場合でも、予約枠の仮押さえができること。	
	36	予約登録画面上に予備項目を追加配置できること。画面への項目の追加位置、タイトル名称は自由に	
		変更できること。	
	37	予約登録画面上の予備項目を、予約者一覧画面の検索条件に設定できること。	
	38	予約登録画面上の予備項目を、帳票出力項目および帳票出力時の検索条件に設定できること。	
	39	予約者一覧画面上で項目の表示/非表示設定ができること。	
	40	予約者一覧画面の表示タイトルの順序が変更できること。(カナ氏名、コース→コース、カナ氏名等)	
	41	予約者一覧画面の表示項目別にソート(昇順・降順)を行い、表示できること。	
	42	予約者一覧画面の表示項目およびソート順を、ユーザ単位で記憶できること。	
	43	予約者一覧画面の抽出結果を、CSV出力できること。	
	44	中止検査が登録可能で、受診情報として引き継がれること。	
	45	中止検査が登録された場合、当日の進捗管理(受診対象管理)に反映されること。	
	46	予約入力画面から住所等の個人属性情報を確認/修正ができること。	
	47	受診者毎に設定されたコメントや注意事項の参照ができること。	
	48	予約時に契約注意事項(指示項目および契約団体特記事項)を表示し、確認できること。	
	49	一部の検査を後日に実施する場合は、その検査の予約登録が同時にできること。	
	50	予約者毎に、発送先に応じた帳票を選択して出力できること。	
	51	案内状や問診票等の予約関連帳票は予約画面から直接出力指示ができること。	
		<待ち予約・キャンセル者・未受診者管理機能>	
	52	待ち予約およびキャンセル者専用の画面を用意し、管理ができること。	

タイトル	No.	要件	備考
	53	キャンセルおよび未受診に変更した場合も、予約変更歴として管理できること。	
	54	予約者と待ち予約者の相互移動ができること。	
	55	キャンセル者の一覧が帳票またはCSV出力できること。	
	1.3.6	受付機能	
		<受付機能>	
	1	予約者一覧表示画面から受診者を選択して受付処理ができること。	
	2	健診者の健診受付時に持参した受診票などに印字されているバーコードをバーコードリーダーで読み取ることにより受付の実施ができること。	
	3	受付時、ワープロコメントが入力可能なこと。また、受診者毎に設定されたコメントや注意事項および予約時に登録されたコメントが参照できること。	
	4	団体・部署・性別・本配区分・年齢範囲の条件設定により、受診者のコースを自動選択して表示できること。また、検査内容及び料金が自動設定されること。	
	5	予約がない受診者の受付登録ができること。また、予約なしで受付を登録したことが何らかの方式にて、確認できること。	
	6	過去の予約情報(予約日、契約、コース、オプション)を参照し、今回受付にコピーできること。	
	7	契約が異なるコースを同時受付できること。(例：所属会社の定期健康診断と市町村のがん検診の同	
	8	契約が異なるコースを同時受付した場合、各コースの負担先に請求が発生すること。	
	9	受付登録画面上に予備項目を追加配置できること。画面への項目の追加位置、タイトル名称は自由に変更できること。	
	10	受付登録画面上の予備項目を、受付一覧画面の検索条件に設定できること。	
	11	受付登録画面上の予備項目を、帳票出力項目および帳票出力時の検索条件に設定できること。	
	12	受付一覧画面上で項目の表示／非表示設定ができること。	
	13	受付一覧画面の表示タイトルの順序が変更できること。(カナ氏名、コース→コース、カナ氏名等)	
	14	受付一覧画面の表示項目別にソート(昇順・降順)を行い、表示できること。	
	15	受付一覧画面の表示項目およびソート順を、ユーザ単位で記憶できること。	
	16	受付一覧画面の抽出結果を、CSV出力できること。	
	17	コース選択時、契約対象外のコースは表示しないこと。	
	18	予約変更歴や予約歴、受診歴が参照できること。	
	19	予約時に契約オプション検査の追加・削除および個人自費オプション検査の指定ができること。	
	20	オプション選択時に、受診資格外のオプションは表示しないこと。	
	21	受診者の健診料金の参照ができること。また、金額の修正、負担先の追加／変更／削除が可能なこと。	
	22	中止検査・後日検査の設定ができること。	
	23	受付登録時に臨床検査システムなどのシステムへ依頼情報が自動送信できること。	
	24	受診者一覧表示画面で対象者を指定して帳票が出力できること。	
	25	受診者一覧表示画面で対象者を指定して領収書が印刷できること。	
	26	受付処理時に指定した帳票(単票および複数種類)の自動出力できること。	
	27	予め指定した帳票の出力日を管理し、出力日を参照できること。	
	28	キャンセルへのステータス変更ができ、管理できること。	
	29	窓口収入金額の管理できること。また、全額支払いの一括設定ができる機能があること。	
	30	健診受診日と、別日に受付した後日受診の履歴を関連付けて、一枚の結果票として出力できること。	
	31	問診票や検体の受け取り確認および登録ができること。	

タイトル	No.	要件	備考
	32	受付時に契約注意事項(指示項目および契約団体特記事項)を表示し,確認できること。	
	33	妊娠中および生理中フラグを立てることにより,特定の検査を自動中止できること。	
	34	現場で発生する健診結果は,受診カードに記入し,OCRによる読み取り,確認リストによる確認,修正を経て,健診システムへ登録できること。	
	35	OCRからのデータ取り込み作業中も,データ編集等に排他制御などロックが発生しないこと。	
	36	領収書の但し書きを業務画面で変更できること。	
	37	領収書の宛名が業務画面で変更できること。	
	38	領収書にコース・オプション等の明細金額が印字できること。	
	39	受診者情報の確定(凍結)管理ができること。 ※確定の場合,受診者情報の変更は不可となる。	
	1.3.8	検査データ入力機能	
		<検査データ表示画面付加機能>	
	1	同一受診日の受診者一覧を検査データ入力画面上で参照できること。	
	2	標準体重,肥満度,BMIについては,当センターの規定に従って自動計算できること。	
	3	表示受診者の過去の健診履歴(日付,コース,受診番号等)を表示できること。また,該当履歴をクリックすることにより,表示検査履歴を変更できること。	
	4	検査データの文字色・背景色を基準値判定ランクにより色分け表示ができること。また,色の設定がユーザ側にて自由に設定できる画面が搭載されていること。	
	5	所見の検索について,コード検索及びキーワードによる部分一致検索ができること。	
	6	所見入力のコンボボックスに表示される所見順は,所見コード順ではなく,任意に指定した順番で表示できること。	
	7	検査結果の入力画面において,受診検査項目(オーダ有無状況)を,入力フィールドの活性・非活性などで区別できること。	
	8	検査結果入力対象者は,受診日の範囲指定およびコース,オプション,団体属性情報,個人属性情報,検査結果情報を条件として抽出し,検査データの入力および参照ができること。抽出条件はエンドユーザにてGUIを使用して自由に作成でき,保存して再利用ができること。	
	9	検査データ入力画面は端末画面の大きさを限界に表示・拡大できること。	
	10	読影入力画面用のネガ色表示ができること。	
	11	文字フォント及び文字サイズは任意に設定ができること。	
	12	個人の検査結果入力画面にて,検査結果のグラフ表示ができること。	
	13	後日受診日の結果データを健診受診日の結果データに統合できること。	
	14	施設内環境において,ブラウザによる受診者の検査結果情報が参照できること。	
		<検査データ入力補助機能>	
	15	検査データ入力画面にて,有り得ない数値(例えば身長で30mなど)を入力した場合は,エラーとすること。また,エラーは解除不可とすること。ただし,異常値として入力の可能性がある範囲の値の場合は,文字色の変化などで警告表示し,入力可能とすること。	
	16	検査項目毎に初期値(予め決められたコード等)を一括で自動入力できること。また,受診者の受診該当項目に検査結果が入力されていない場合に限り,一括で初期値を入力できる機能を有すること。異常値項目は色分けするなどして,確認が容易にできること。	
	17	基準値範囲により設定されたランク値の手入力修正が可能なこと。	
	18	ボタン押下等によりログインユーザ名を読影医師として容易に登録できること。	

タイトル	No.	要件	備考
	19	一次読影所見を二次読影所見にコピーできること。その際、コピー先にデータが存在する場合は上書き禁止とし、コピーしない仕様とすること。	
	20	前回所見を今回所見にコピーできること。	
	21	A入力とB入力と2人で同一検査データの入力を行い、入力結果のバリファイチェックが行えること。また、差異があるデータは分かり易くマーキングされる機能を有すること。	
	22	OCRから取り込んだデータとパンチ入力したデータのバリファイチェックを行い、実行結果をOCRイメージ画像と取込結果の並列表示画面上で確認・修正ができること。また、差異のあるデータは分かり易くマーキングされる機能を有すること。	
	23	取り込んだOCR用紙は画面上で画像として確認できること。また、参照の操作が容易であること。	
	24	当日や翌日受診予定の予約者について、予約日ごとにまとめて対象者を抽出でき、過去値や過去値コメントのチェックを、面談前に予習するために、対象者の一括選択とデータ表示が一連の操作で実行できること。なお、受付済みの場合は今回の問診内容のチェックもできること。	
	25	検査結果入力画面上で、過去の受診履歴(日付)が確認でき、過去受診履歴を選択した場合、その履歴日を基準として前回、前々回などの結果値を表示できること。今回分の表示エリアに前回値を表示した場合は、前々回値が前回値欄に表示されるなど、画面再抽出無しに過去の結果が追跡できること。	
	26	グラフ表示や画像表示ができる面談用の検査データの入力画面にて、検査データや判定のデータを修正した場合はデータ変更登録ができること。	
	27	検査データの入力画面にて、シェーマの表示ができ、シェーマにはフリーで書き込みを行う事が出来ること。また、そのような画面もエンドユーザ(プログラムの知識が無い者)にも作成できること。	
	28	判定や検査値、入力状況等の各種条件で対象者を検索し、その対象者に対して一括で検査結果を入力可能な機能を有すること。	
	29	検査結果入力後、健診コースの変更が可能であり、変更に伴って入力済の結果等も反映されること。(結果情報をコピーする機能でも可。)	
	30	既往歴、家族歴の前回情報を今回情報へ引継ぐ機能があること。	
	31	前回値とのデータ比較を行い、範囲外であれば、確認を促すメッセージが出力できること。	
	32	一覧結果入力画面で、上段受診者の結果値を下段受診者にコピーできること。	
	1.3.9 検査結果入力状況確認機能		
	1	検査データの入力状況を系統的にチェックできること。	
	2	チェックした結果、入力漏れのある受診者及び未入力項目を一覧表示できること。	
	3	未入力チェックパターンの作成ができること。未入力チェックでは全て入力されている場合と、一部の入力(視力検査の裸眼矯正など)があれば入力済みとする両方の設定が可能なこと。	
	4	チェック実行時に、未入力項目を抽出・表示ができること。	
	5	対象者を抽出でき、結果の入力状況を画面にて一覧で確認できること。	
	6	入力状況を記号で表示し、入力状況に対応した文字色・背景色が反映されること。	
	7	複数の検査項目をグループとして設定し、複数のグループをパターンで設定・表示できること。	
	8	入力状況を示す画面から、検査データ入力画面に遷移できること。	
	1.3.10 検査データ入力画面設計機能		
	1	検査データ入力画面レイアウトの追加、変更、複写、削除ができること。	
	2	同一画面レイアウト上に今回と過去あわせて10回の検査データを表示できること。	

タイトル	No.	要件	備考
	3	入力権限の管理や誤操作防止の目的から,参照のみの画面や,入力可能項目と参照のみの項目が混在した検査データ入力画面が作成可能なこと。なお,混在する画面にて参照のみの項目の指定は自由に設定できること。	
	4	スクロール機能を用いることにより,多項目の同一画面表示ができること。なお,スクロールは縦・横どちらも設定できること。	
	5	表示フォントの指定(文字種・大きさ・字体等)の変更ができること。	
	6	検査データ入力画面は複数人に複数項目の結果入力できる表形式と健診者ごとに複数項目の結果入力できるフリーレイアウトが設定できること。また,フリーレイアウトの場合,項目別に文字サイズや文字色の変更登録できること。	
	7	検査データ入力画面のカーソル移動順の制御ができること。	
	8	エンドユーザにおいて,検査結果画面が作成でき,ログインユーザごとに使用する画面が制御できること。	
	9	エンドユーザにおいて,入力書類(OCRレイアウト)のイメージ通りに検査データ入力画面を設計できること。	
	10	標準検査結果画面として30種類以上を装備していること。	
	1.3.11 判定支援機能		
	1	当センターが規定するロジック(単項目基準値判定・2項目組み合わせ判定・3項目組み合わせ判定など)により,判定ロジック,判定結果医師コメントをシステムより導出できること。	
	2	判定支援に問診内容(治療中,生理中など)を加味できること。	
	3	年齢範囲・性別などの組合せにより基準値の設定ができること。	
	4	特定健診階層化およびメタボリックシンドローム判定ができること。	
	5	受診日の範囲指定およびコース,オプション,団体属性情報,個人属性情報,検査結果情報で対象者を選別抽出し,判定支援実行ができること。抽出条件はエンドユーザにてGUIを使用して自由に作成でき,保存して再利用ができること。	
	6	判定支援未実行の受診者のみを対象として判定支援の実行ができること。	
	7	判定支援は基本1度のみとし,複数回実行できないこと。ただし,再実行を要する場合は,強制再実行できる仕組みがあること。	
	8	判定支援実行時,手入力した判定がある場合に,手入力判定の上書き可否を選択できること。	
	9	判定支援設定はユーザにて検査項目の追加・変更ができること。	
	10	団体向けの判定について,出力先団体の契約に含まれる項目のみで判定支援が実行され,契約外の項目結果が判定に影響を受けないこと。なお,契約項目であるかどうかは,出力時に選択するのではなく,コース等の情報に事前に登録してある情報をもとに自動で判断されること。	
	11	団体ごとの異なる判定に関して,入力画面上でそれぞれの判定が確認・修正できること。	
	12	協会けんぽの制度を利用し一部受診料金を負担することでドックを受診し,尚且つ事業所の定期健診にも代用する場合等において,それぞれの判定を個別で持つことができること。	
	13	当センターが規定する2種の判定支援設定を提供すること。	
	1.3.12 帳票出力機能		
	<帳票出力条件の選択>		
	1	帳票出力条件(抽出,過去履歴抽出,ソート)の設定ができること。	
	2	帳票出力条件を択一指定,範囲指定を組合せて設定ができること。	
	3	帳票出力条件はコース,オプション,団体属性情報,個人属性情報,受付情報,料金情報,検査結果情報など,帳票種類に応じた項目から選択できること。	
	4	帳票出力条件は任意の名前を付けて保存でき,再使用できること。	

タイトル	No.	要件	備考
	5	帳票出力条件は権限を付与して、使用可否制御ができること。	
	6	結果票等において、過去の結果は今回所属団体で受診した分のみ出力できること。	
	7	結果票等において、過去履歴については、指定条件(コース、検査項目等)に合致した履歴のみ出力できる	
		<出力指定処理>	
	8	プリンタ(トレイ等も含めて)を指定して印刷できること。	
	9	部数を指定して印刷できること。	
	10	印刷プレビュー表示ができること。	
	11	印刷時に処理件数、総出力件数、残り時間を表示すること。	
	12	複数帳票をグループ化し1回の操作で複数の帳票を印刷できること。このとき、必要な帳票のみ出力されること。(例：ドック問診票とオプション問診票(複数種類)をグループ化した場合、オプション問診票は受診するオプション検査に応じて必要な分(および種類)だけ出力される)	
	13	複数帳票を帳票単位および受診者単位でソート出力できること。	
	14	出力先団体の契約に含まれる項目のみ出力されること。なお、データの一時退避など作業が発生せず、自動でフィルタがかかること。なお、契約項目であるかどうかは、出力時に選択するのではなく、コース等の情報に事前に登録してある情報をもとに自動で判断されること。	
	15	受診しなかった検査項目の結果として、任意の記号が出力できること。	
	16	帳票印刷時に出力済みの管理ができ、出力有無を条件として、帳票印刷できること。(未出力の対象者だけ印刷できること)	
	17	同一の報告書レイアウトを使用して、提出先(個人向け、団体向け)毎に出力項目の自動制御ができること。	
	18	検査データ入力画面にて入力したシェーマの画像(書き込みデータを含む)を印刷できること。	
	19	複数日に跨った受診者データ(総合がん検診など)を1書式の結果票に統合して出力できること。	
	1.3.13	帳票レイアウト設計機能	
	1	GUI(グラフィカルユーザインターフェース)を用いて設計ができること。	
	2	レイアウト作成時、ミリおよびインチ単位で位置修正ができること。	
	3	罫線、オブジェクト(画像等)のレイアウト設定ができ、また、フォントの指定(文字種・大きさ・字体等)も変更できること。	
	4	出力する項目のテーブル変換処理(1→A,2→B等)ができること。	
	5	帳票種類に応じた項目を任意に選択できること。(今回と過去あわせて10回分までのデータを同時に定義ができること。)	
	6	2項目以上のデータを出力時に結合させて連続出力する機能及び、2項目以上の設定項目の中でデータが入力されている項目のみを抽出して出力する機能を用いることにより、効率的に帳票レイアウトの作成ができること。また、項目を結合する場合、項目間の結合文字(改行、カンマ等)の指定ができること。	
	7	測定値のグラフ表示等、表計算ソフト(Microsoft Excel)で加工できること。	
	8	エンドユーザにおいて、帳票出力項目の制御、帳票レイアウトを作成でき、ログインユーザごとに使用する帳票種類が制御できること。	
	9	バーコードの印字が可能であり、ユーザ側にて出力したいバーコードの作成ができること。また、バーコード(JAN,NW7,Code128,QR等)を印字できる帳票を編集・新規作成ができること。	
	10	当センターが使用する6種の報告書が出力できるように帳票作成ができること。なお、作成に必要な素材として標準帳票やサンプル帳票の提供が十分に行えること。帳票作成はシステムに精通しない一般職員が作成可能であるインターフェースを準備すること。出力対象項目はシステムに登録する全項目	

タイトルNo.		要件	備考
	11	当センターが使用する3種の運用帳票が出力できるように帳票作成ができること。なお,作成に必要な素材として標準帳票やサンプル帳票の提供が十分に行えること。帳票作成はシステムに精通しない一般職員が作成可能であるインターフェースを準備すること。出力対象項目はシステムに登録する全項目	
	12	当センターが規定する2種の問診票・受診票が出力できるように帳票作成ができること。	
	13	当センターが規定する3種のOCR帳票が出力できるように帳票作成ができること。また,OCR取り込みを可能とすること。	
	14	標準帳票として80種類以上を装備していること。	
	1.3.14 データ抽出機能		
	<外部ファイルデータ出力>		
	1	各種データは,CSV及び固定長形式で出力する機能を有すること。	
	2	出力する項目のテーブル変換処理(1→A,2→B等)ができること。	
	3	固定文字列の出力ができること。	
	4	数値属性に関して,編集形式(桁数)を変更して出力できること。(定数倍出力)	
	5	日付項目に関して,出力形式(西暦,和暦等)を変更して出力できること。	
	6	データ出力種類(帳票種類)に応じた項目を任意に選択ができること。(今回と過去あわせて10回分までのデータを同時に定義ができること。)	
	7	2項目以上のデータを出力時に結合させて連続出力する機能及び,2項目以上の設定項目の中でデータが入力されている項目のみを抽出して出力する機能を用いることにより,効率的にデータ抽出ができること。また,項目を結合する場合,項目間の結合文字(改行,カンマ等)の指定ができること。	
	8	ヘッダー情報出力有無の設定ができること。	
	9	契約コースに含まれる検査項目の結果のみ出力できること。	
	10	同一の出力定義を使用して提出先毎に出力項目の制御ができること。 (分類判定は出力する結果項目のみ参照して付与すること)	
	11	保険者や代行機関など向けに国が定めた特定健診情報ファイルが検査結果,決済情報等をXML形式で出力できること。以下の種類がXML形式で出力可能なこと。 ・ 国保向け特定健診結果,決済情報 ・ 社会保険支払基金向け特定健診結果,決済情報 ・ 人間ドック結果,決済情報	
	12	エンドユーザにおいて,外部ファイル(CSV形式など)データ出力を作成でき,ログインユーザごとに使用するデータ出力設定の制御ができること。	
	13	協会けんぽ向けの電子ファイル出力ができること。	
	14	協会けんぽ向けの電子ファイルのデータチェックができること。	
	15	サーバー実行とクライアント実行が選択できること。サーバやクライアントへの負担を考慮し,時刻を指定して実行予約ができること。	
	16	特定健診XMLファイルにがん健診の結果も出力できること。	
	17	出力先団体の契約に含まれる項目のみ出力されること。なお,データの一時退避など作業が発生せず,自動でフィルタがかかること。なお,契約項目であるかどうかは,出力時に選択するのではなく,コース等の情報に事前に登録してある情報をもとに自動で判断されること。	
	18	団体ごとの異なる判定に関して,入力画面上でそれぞれの判定が確認・修正できること。	
	19	外部データ出力の設定について,作成の素材となる標準設定やサンプル設定を十分に提供できると。作成はシステムに精通しない一般職員が作成可能であるインターフェースを準備すること。	

タイトル	No.	要件	備考
	20	設定する項目数について,300項目程度は設定できること。	
		＜出力条件の選択＞	
	21	データ出力条件(抽出,過去履歴抽出,ソート)の設定ができること。	
	22	データ出力条件を択一指定,範囲指定を組合せて設定ができること。	
	23	データ出力条件は,コース,オプション,団体属性情報,個人属性情報,受付情報,料金情報,検査結果情報など,データ出力種類(帳票種類)に応じた項目から選択できること。	
	24	データ出力条件は任意の名前を付けて保存でき,再使用できること。	
	25	データ出力条件は権限を付与して,使用可否制御ができること。	
	26	出力先(パス),出力ファイル名の指定ができること。	
	27	データ出力時に処理件数,総出力件数,残り時間を表示すること。	
	1.3.15	外部データ取り込み機能	
		＜データ取り込み機能＞	
	1	特定のキー情報をベースに,CSVファイルからデータが取り込めること。	
	2	取り込みの定義はエンドユーザにて作成・編集・コピーができること。	
	3	CSVファイルの取込対象外列の設定ができること。	
	4	CSVファイルの内容を変更することなく,列の取込順を変更できること。	
	5	取り込んだデータがエラーになった場合は,解りやすくエラー通知する機能があること。また,エラー個所の指摘を行うこと。	
	6	取り込んだデータは手入力したデータと同じく,修正や出力ができること。	
	7	取込時のデータマッチングで候補者をリスト表示できること。	
	1.3.16	統計機能	
		＜汎用統計機能＞	
	1	帳票種類に応じた項目の値を指定して集計・統計ができること。	
	2	集計・統計条件を『かつ』『または』の条件を階層化するなどにて自由に設定できること。	
	3	抽出条件に該当した件数の測定値・判定値に加え,料金情報も集計できること。	
	4	結果を帳票印刷できること。	
	5	結果をCSV形式で出力できること。	
	6	サーバー実行とクライアント実行が選択できること。サーバやクライアントへの負担を考慮し,時刻を指定して実行予約ができること。	
		＜統計レイアウトの設計＞	
	7	GUI(グラフィカルユーザインターフェース)を用いて設計ができること。	
	8	ユーザで新規作成や修正ができること。	
	9	クロス集計(縦軸と横軸の条件決定により,各セルの条件を自動設定)ができること。	
	10	帳票は自由にレイアウトできること。	
	11	エンドユーザにおいて,統計集計条件設定,出力項目の制御,帳票レイアウトを作成でき,ログインユーザごとに使用する統計設定が制御できること。	
	1.3.17	請求機能	
		＜請求書発行＞	
	1	団体(事業所および健保)宛の請求書の発行ができること。	
	2	請求書は部署別に発行が可能なこと。	
	3	請求項目名称変更・値引き・検診車燃料代等の追加請求ができること。	

タイトル	No.	要件	備考
	4	個人負担金の窓口領収書の発行ができること。	
	5	請求明細を画面で確認できること。また画面上から変更・調整が可能であり,変更のあることが視認出来る状態となること。	
	6	請求書番号は年度管理ができること。	
	7	請求書作成日,発行日が管理できること。	
	8	請求書の印刷プレビュー表示ができること。	
	9	請求書は赤伝票にて打消し処理ができること。	
	10	作成・発行した請求データは保存ができ,後日に参照ができること。保存済みのデータについては,再集計は不可とすること。	
	11	発行日(請求日)と請求書作成日は別に管理可能(通常は自動入力)であり,両日付は手修正できること。また,発行日の日付は空白の設定ができること。	
	12	団体別に請求書単位で入金管理ができること。また請求残高が表示できること。	
	13	個人負担金の入金管理ができること。	
	14	個人負担金の支払い方式の種別(現金,クレジットカード等)管理ができること。	
		<料金設定機能>	
	15	コースの登録,変更が行えること。	
	16	請求先は個人,事業所,健保以外に3箇所の請求先の指定ができること。	
	17	消費税の負担先指定ができること。また,税金の課税,無税の設定もできること。	
	18	同一コースでも,契約毎に検査内容の変更および追加設定ができること。	
	19	同一契約の同一コースでも,健保・事業所・部署・性別・本配区分・年齢範囲の条件設定により,料金の指定ができること。	
	20	未入金の一覧が出力できること。出力はCSVと帳票での出力のどちらにも対応できること。	
	21	請求書に記載するコース名称は,団体毎に変更できること。団体別にコース名称を自動で変更して出力できること。	
	22	消費税の計算において,個人ごとの消費税積み上げと請求合計から算出する消費税が選択できること。	
	1.3.18	工程管理機能	
	1	契約,予約,受診の各工程の管理ができること。	
	2	複数の工程パターンが登録できること。	
	3	基準日から日数を指定して予定日の登録ができること。	
	4	エンドユーザにて,GUI(グラフィカルユーザインターフェース)を用いて工程パターンの追加・変更ができること。	
	5	各種業務機能の操作(実行,帳票出力,登録等)によって自動的に工程完了日が登録されること。	
	6	工程完了日は手入力での変更ができること。	
	7	工程状況は団体別・個人別で表示ができること。	
	8	工程管理画面から各業務画面へ遷移できること。	
	9	工程に遅延が発生した場合,工程ごとに指定したログインユーザに通知する機能を有すること。	
	10	契約情報一覧画面での契約検索条件として,契約工程の実施状況が使用できること。	
	11	予約者一覧画面での予約者検索条件として,予約工程の実施状況が使用できること。	
	12	受付一覧画面での受診者検索条件として,受付工程の実施状況が使用できること。	
	13	帳票出力の検索条件として,帳票種類に応じた工程の実施状況が使用できること。	
	1.3.19	精密検査フォローアップ	

タイトル	No.	要件	備考
		1 精密検査が必要と判定された受診者及び対象項目を一覧表示できること。	
		2 精密検査の対象と判定された受診者は受診日・個人属性・団体属性・検査項目から絞り込みできること。	
		3 対象者一覧画面から精密検査予約の登録ができること。	
		4 精密検査未受診者を抽出できること。	
		5 精密検査対象者の追跡状況(登録未済)を一覧で確認できること。	
		6 精密検査結果(検査日,判定,診断名,実施施設)が登録できること。	
		7 他院で受診した精密検査結果表など,スキャンしたファイルを管理できること。	
		8 精密検査結果を集計できること。	
	1.3.20	揭示板機能	
		1 揭示内容をログインユーザ署名のみで設定でき,揭示できること。	
		2 揭示期間が設定できること。	
		3 特定のユーザに対して,揭示内容を表示できること。(宛先指定)	
		4 受信済みの揭示は条件を指定して絞り込み表示ができること。	
		5 未読・既読の管理ができること。	
	1.3.21	セキュリティ	
		1 業務開始時のユーザIDおよびパスワード入力により,使用者制限及び入力者管理が行えること。	
		2 使用者ごとに,登録や検査データ入力,印刷操作の権限を付与できること。	
		3 ユーザごとにパスワードを設定ができること。	
		4 ログインユーザはパスワード変更ができること。	
		5 パスワードは,①有効期限の設定,②前回,前々回と同一のパスワード使用禁止が行えること。	
		6 ユーザ毎のメニューに加えて,ユーザ毎に使用頻度の高い業務をサブメニュー(お気に入り機能)として設定出来ること。	
		7 システムの使用権限に関し,権限パターンの作成ができること。	
		8 ユーザ毎に使用権限が設定でき,使用権限パターンを割り当てられること。	
		9 未使用のデータ(健診者情報,団体情報,契約情報,コースおよびオプション情報)が削除できること。	
		10 操作ログを取得しエンドユーザにて参照できること。	
		11 操作内容毎に絞り込んでログを閲覧できること。	
		12 契約コースの更新履歴を管理し,変更前のデータを記録および参照できること。ただし,更新履歴出力によるシステムレスポンスは遅延しないこと。	
		13 予約及び受付内容を変更する場合は,変更前後の情報が記録され,変更理由が登録できること。	
		14 検査結果の更新履歴を管理し,変更前のデータを記録および参照できること。ただし,更新履歴出力によるシステムレスポンスは遅延しないこと。	
	1.3.22	経営実績管理	
		1 契約団体別およびコース種類別で,前年度実績(人数,金額),今年度予定(人数,金額),今年度実績(人数,金額)が集計できること。	
		2 集計結果を画面でグラフ表示ができること。	
		3 契約および受診日の範囲指定,受診情報(コース,オプション),団体属性情報,個人属性情報,検査結果情報を条件として抽出し,勘定科目別で売上(概算)が集計できること。	
		4 契約および受診日の範囲指定,受診情報(コース,オプション),団体属性情報,個人属性情報,検査結果情報を条件として抽出し,事業分野別で売上(概算)が集計できること。	
	1.3.23	現有データの移行	

タイトル		No.	要件	備考
		1	現行システムのデータ移行が可能なこと。移行対象のデータは以下の通りとする。 ・ 健診者属性情報 ・ 事業所(団体)属性情報 ・ 受診者情報 ・ 検査データ ・ 所見テーブル	
		2	現有データの移行対象年数は3年,件数は検査データ(件数・受診数)が24万件程度を想定のこと。	
		1.4	システム連携	
		1.4.1	医事会計健診者(患者)ID連携機能	
		1	健診者属性データを医事会計システムから参照し登録有/無の区別が可能であること。	
		1.4.2	臨床検査・病理検査に関する他システム連携	
		1	臨床検査システム(院内・外注先システム)と連携し,検査依頼および結果取込のカスタマイズに対応できること。	
		2	規定のフォーマットで検査の依頼情報の提供ができること。また,電子ファイル等の外部媒体にデータを格納できること。	
		3	規定のフォーマットで結果取込ができること。	
		4	検査結果の取り込みの際,数値データや定性データを取り込みできること。また,定性データなどはコードでの取り込みができること。	
		5	数値データは整数,小数の桁数管理が可能であり,桁数を越えたデータはエラーとして処理できること。また,定性データも決められたコード以外のデータをエラーとして処理できること。なお,エラー個所は明確に表示すること。	
		1.4.3	検査機器連携	
		1	下記検査機器の分類で結果受信することができること。 ・ 身長体重計1台 ・ 視力計×1台 ・ 血圧計×5台 ・ 聴力計×1台 ・ 眼圧計×1台 ・ 肺機能計×1台 ・ 骨密度測定器×1台 ・ 尿素呼気計×1台	
		2	RISサーバを介して接続し,属性情報送信を実施すること。 また,モダリティより撮影者を検索した際には該当者のみを表示できるようにすること。	
		3	項4,5の機器を含め,各検査(診察,尿検査など)の通過管理用の端末を有すること。	
		1.4.4	放射線・検査に関する他システム連携	
		1	新規導入健診システムは導入している画像サーバおよび画像ビューワと連携し,健診システムからの通信により,画像システム側に対象健診者の各モダリティ単位の画像を表示できること。接続方式はTCP/IPとする。	
		2	画像表示は受診者,モダリティを指定して,画面連携ができること。また,モダリティ種類の設定は,画面ごとに呼び出すモダリティの指定が可能であり,エンドユーザ側でも変更や新規画面の作成ができる	
		3	読影レポートシステムでの所見内容を取り込むことができること。	

タイトル	No.	要件	備考
	4	RISシステムに対して通過管理及びオーダー送信が可能であること。	
	5	統合診療支援プラットフォームシステムに対して結果送信、画面連携ができること。	
	1.4.5	検査に関する他システム連携	
	1	新規導入健診システムは導入している心電図サーバおよび心電図ビューワと連携し、健診システムからの通信により、MfarViewerを起動できること。	
	2	心電図自動解析装置にオーダー情報を送信できること。	
	3	心電図システムでの所見内容を取り込むことができること。	
	1.4.6	特定保健指導に関する他システム連携	
	1	特定保健指導システムと連携し、健診1次検査データを送信できること。	
	1.5	診療データ管理	
	1.5.1	診療データコース登録	
	1	診療データをコース登録する際には検査項目を指示できること。	
	1.5.2	診療データ予約登録	
	1	診療コースでの予約ができること。	
	1.5.3	診療データ受付登録	
	1	診療コースでの受付ができること。	
	1.5.4	診療データオーダー送信	
	1	診療データをコースでの受付をすることにより放射線科情報管理システム、検体検査システム、病理システムにオーダー送信することができること。	
	1.5.5	診療データ結果受信	
	1	読影レポートシステム、検体検査システム、病理システムより結果を受信することができること。	
	1.5.6	診療データ画面表示	
	1	読影レポートシステム、検体検査システム、病理システムより受信した検査結果を表示する画面を有すること。	
	2	診療データに対するコメントを入力する画面を有すること。	
	1.5.7	診療データ外部データ抽出及び外部データ入力	
	1	精密検査の検査データを1次検査内に保管するために精密検査日付での外部データ出力機能（標準機能）を用いてCSVデータの出力ができること。	
	2	精密検査の検査データを1次検査内に保管するために1次検査日付での外部データ入力機能（標準機能）を用いてCSVデータの入力ができること。	
	1.5.8	診療データ帳票出力	
	1	読影レポートシステム、検体検査システム、病理システムより受信した検査結果、及び入力画面で入力したコメントを帳票に出力できること。	
	1.5.9	診療データ紹介状出力	
	1	紹介状（帳票設定にて作成）を出力することができること。	
	2.	Web機能	
	2.1	Web予約全体	
	2.1.1	構成	
	1	SSL+暗号化(乱数)により2重に対応ができていること。	
	2	ミドルウェアの脆弱性は判明した場合のセキュリティの考慮がなされていること。	

タイトル	No.	要件	備考
	3	健診システムのデータベースとは分離した構成でWeb用データベースが設計されており個人情報のセキュリティの配慮がなされていること。	
	2.1.2	Web予約機能	
	1	システム上に登録されている,されていない申込者の双方に対応できること。	
	2	基幹システムの予約状況と連動が可能であること。	
	3	Web上で予約入力した内容が連動して健診システムとの予約連動できること。	
	4	主となる健診項目以外にオプションの検査項目も選択できること。	
	5	選択できる検査項目は所属している団体の契約内容に該当する項目のみ選択できること。	
	6	予約した日付,内容の変更を行うことができること。	
	7	Web上で個人予約,団体予約,枠予約が可能であること。	
	3.	その他	
	3.1	全体	
	3.1.1	システムベンダ	
	1	導入後最低10年間は販売製品をサポートできる企業であること。また,会社合併等が行われる場合に事業の継続や引き継ぎを行うこと。	
	2	全国での導入実績で最低50ユーザ以上の稼働中実績があること。	
	3	年間50万件以上の受診データを処理する施設規模での導入実績があること。	
	3.1.2	構築	
	1	システム構築のための打ち合わせは当施設の敷地内にて実施できること。また,それにかかる費用は見積の範囲内とし,追加請求しないこと。	
	2	5年以上の健診システム構築の経験があるSEが担当として対応すること。また,10年以上の経験があるPMがプロジェクトを取りまとめること。	
	3	構築に携わる主たる担当者(営業担当も含む)の体制表を提示できること。また,所属部署も明確にする	
	3.1.3	サポート	
	1	システム構築担当のSEだけでなく,専門の保守員が稼働後に対応できること(担当者不在を作らないこと)。また,保守センターへの連絡は平日8:00~18:00で確実に連絡が取れる体制を持っていること。	
	2	サポートセンターの電話はフリーダイヤルとし,通話料はベンダ側にて負担すること。	
	3	導入後も定期的に訪問し,最低年1回は改善要望などの解決方法について定例会を当施設にて実施する	
	4	ハードウェアの保守締結ができること。また,保守の窓口はソフトウェアの保守窓口と統一されており,当施設からの連絡に対して切り分けなど実施し,迅速に対応できること。	
	5	協会けんぽや特定健診の年度改正に対し,保守メニューにてシステム変更ができること。	